

組見本（35%）

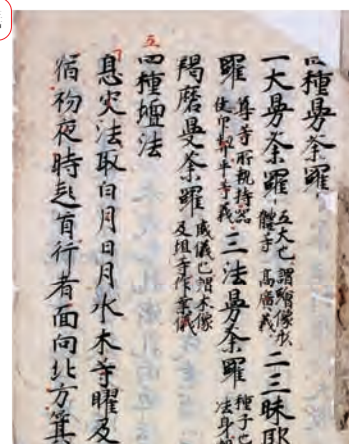
翻刻

「脚註」では文字の校異・加筆訂正箇所を記す。

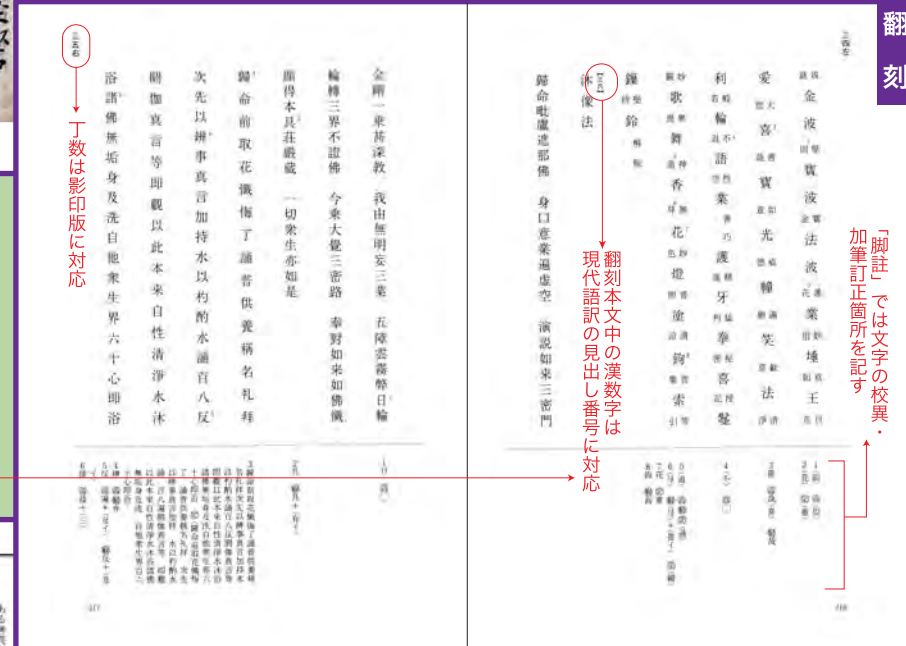
□略歴□
大澤聖寛（おおさわ・しょうかん）
一九四二年 東京に生まれる
一九六五年 大正大学仏教学部真言学科卒業
一九七三年 大正大学大学院文学研究科博士課程
仏教学満期退学
現在 大正大学非常勤講師、博士（仏教学）、
真言宗豊山派世尊院住職



丁数は各頁の上欄の小口より、
それぞれ表記



影印版

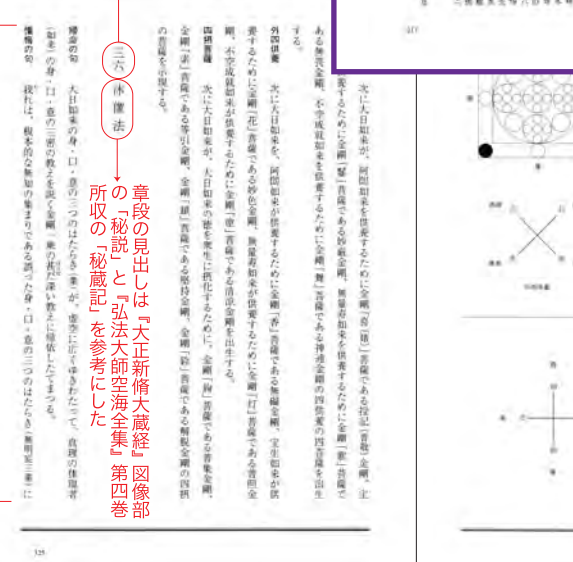


翻刻本文中の漢数字は
現代語訳の見出し番号に対応

丁数は影印版に対応

（ ）内には原語、（ ）内には
語句の説明を補足した

現代語訳



読解の便をはかり
適宜図版を挿入

弘法大師以降の真言学徒達が

活用してきた『秘蔵記』を

独自の視点で大胆にひもとく

真言密教の最重要ターム100項目を再検証し、

向後の研究に新視点を提示！

未刊行の

仁和寺蔵本の写本を
カラー版で紹介

高山寺本、東寺観智院本、
高野山真別処本で校合

大澤聖寛（おおさわ・しょうかん）

仁和寺蔵本

秘蔵記

翻刻・校訂・現代語訳



B5判・上製クロス装・貼箱入〈197mm×270mm×40mm〉・400頁
定価 36,750円〈ISBN978-4-903470-33-7 C3015〉
©ノンブル社

♣ご注文・お問合せは下記へお願いします

図書出版 **ノンブル社**

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-8-22-2F
電話 03-3203-3357 FAX 03-3203-2156

【本書を推薦します】

小野塚幾澄

真言宗豊山派第三十一世管長
総本山長谷寺第八十五世化主・文学博士

今後の『秘蔵記』研究に新視点

このたび、日頃、敬愛して止まない碩学大澤聖寛博士が、積年の努力の結果、新資料仁和寺蔵本『秘蔵記』の翻刻・校訂・現代語訳を公刊されたことは、まことに祝賀すべきことである。

周知の通り、大澤博士は、多年にわたり、真言教学と豊山事相面での研鑽をつづけ、多くの緻密周到な研究論文を発表し、斯界における高い評価を受けており、また学位論文「空海教学と『秘蔵記』の研究」は、その貴重な成果である。

このたび公刊された仁和寺蔵本『秘蔵記』翻刻・校訂・現代語訳は、新資料仁和寺蔵本を高山寺本、東寺観智院本、高野山真別処本で校合、そこに示される真言教学の最重要の項目百条を再検証し、今後の『秘蔵記』研究に新視点を提起しており、弘法大師空海の教学の根幹を解明するための基本資料と考えられる『秘蔵記』の研究に、資する意義はまことに大きく、大澤博士の蘊蓄を待つてはじめて、なし得た画期的な業績といえる。

近年、仏教学あるいは宗乗学の分野での多面的研究が著しく進展していることは、大いに評価すべきことである。しかし、まず基礎資料に真摯に取り組み、丹念に祖師、先学の考究のすがたに触れ、その想いを明確に把握することこそ後学の果たすべき第一の責務と考える。

この意味から、このたびの大澤博士の労作を高く顕彰すると共に、今後の一層の精進を期待し、心からなる推薦のことばとしたい。

加藤精一

真言宗豊山派総合研究院院長
文学博士

仁和寺蔵本『秘蔵記』の出版を祝う

（校訂及び現代語訳）

『秘蔵記』の作者については、古来より数説あるが、それらはいずれも誤説であるか、又は推測の境を出ていない。つまり作者は不明である。しかし誰によって書かれたかは定かでないけれども、弘法大師以降の真言学徒たちが、この書を大いに利用し活用していることは間違いないのである。両部曼荼羅四種壇法三部五部、道場観、三句五転、灌頂、本尊など、真言密教特有の項目を百項にわたって解説したもので、それらの名目を見れば、密教の重要問題をすべて網羅しているように見える。ただしそれらの内容を観察してみると、主として語句の概略的な説明であつて、思想的な論考はほとんど無いのである。現在までの思想史的な弘法大師の研究からすればいささか物足りない感が否めないが、この書が、不空三蔵や惠果阿闍梨、さらには弘法大師と深くかわつている、というような伝承があるためか、各時代の学匠方もこの書を大切に扱い、著作の重要な部分で引用して今日に至っている。したがって百項目の中には、必ずしも弘法大師の著作と一致しない部分もありながら、それを真言密教の二つの展開だと評価する見方もあるし、中古の学匠方がこうした説を述べているのは、『秘蔵記』に依っているからだ、ということもわかるのである。

此のたび大澤博士は、仁和寺に伝わる二〇二一年の写本を翻刻・校訂され、さらに現代語訳をつけて出版された。事相、教相にわたる典型的な語句の説明が揃っている、しかもそれが学匠や学徒に行きわたっている原典の一つを世に出すことは、真言宗学の新しい発展のために大いに役立つものと確信している。ここに本書の出版を心からお祝いする。

小峰彌彦

大正大学学長・文学博士

『秘蔵記』の刊行を祝う

『秘蔵記』は、弘法大師教学を考察する上で貴重な文献資料である。言つまでもないが『秘蔵記』には真言密教の重要な項目が百条にも及ぶほど多数掲げられ、それぞれの確な解説が施されているのである。殊に真言密教の要である事相にかんしての項目も多く、たとえば曼荼羅、四種壇法、道場観、灌頂、本尊、施餓鬼法、六大能生などの重要な教理が列挙されている。

しかしながら『秘蔵記』の取り扱いを巡つては様々な議論がなされ、とりわけ作者については古来より、「不空三蔵の口説を惠果和尚の記したもの」あるいは「空海口説円行筆録説」にせよ、空海教学そして真言密教の研究の確立には、『秘蔵記』の存在は極めて大きいものがある。

大澤聖寛先生の博士論文は、「空海教学と『秘蔵記』の研究」である。この論題に示されているように、大澤氏は空海教学の研究には『秘蔵記』が欠かせないと考え、思想教理の研究はもとより正確な資料を提供する姿勢も一貫して行ってきた。これまでの『秘蔵記』研究の資料は、金剛峯寺補陀落院真海本開版の古版本、高野山大聖院版本、高野山蓮福院版本などをもとにしている。それに対し今回刊行されたものは、新たな資料である仁和寺蔵本を用い、これを翻刻・校訂・現代語訳したものである。今後の『秘蔵記』研究に寄与するものと確信し、ここに推薦するものである。

目次

仁和寺蔵本『秘蔵記』（影印版）

翻刻・校訂

現代語訳

- 一 大日経
- 二 両部曼荼羅
- 三 金剛頂経四会
- 四 金剛界九会
- 五 四種曼荼羅
- 六 四種壇法
- 七 水壇の法
- 八 三部および五部
- 九 三 点
- 一〇 四智印および五智の意味
- 一一 胎 金
- 一二 胎金の金剛
- 一三 諸 寺 門
- 一四 水喻五智
- 一五 五明擬五智

- 一六 観 義
- 一七 場 観
- 一八 浄菩提心観
- 一九 三 平等
- 二〇 三 解脱門
- 二一 四 無量観
- 二二 三 平等観
- 二三 字 義
- 二四 阿字、羅字
- 二五 阿鐸の字義
- 二六 五 字
- 二七 き 字
- 二八 毗盧経、境界、如虚空
- 二九 率 都 婆
- 三〇 法身定慧
- 三一 真言義、陀羅尼、曼荼羅
- 三二 梵 漢
- 三三 梵字本有
- 三四 梵 正邪
- 三五 三十七尊金剛号

- 三六 沐 像 法
- 三七 三 句 義
- 三八 如去、如来
- 三九 十度十指
- 四〇 施 餓 鬼
- 四一 本 尊 義
- 四二 略念誦法
- 四三 花藏世界
- 四四 儀 軌 義
- 四五 焼 香 法
- 四六 念珠引越
- 四七 四 会
- 四八 開 門
- 四九 結 界 義
- 五〇 解 界
- 五一 輕 霧
- 五二 蓮合、三業三部
- 五三 自 然 智
- 五四 四分之一
- 五五 三世千仏
- 五六 散 心 念
- 五七 十 念

- 五八 超 十 地
- 五九 灌 頂 義
- 六〇 秘 密 義
- 六一 加 持 義
- 六二 雲 霧
- 六三 草木非情成仏義
- 六四 怖 畏 観
- 六五 庵 字
- 六六 不可得義
- 六七 五種念誦
- 六八 邪 氣 魔
- 六九 金剛妻等
- 七〇 三 乘
- 七一 五 類 天
- 七二 五智积名
- 七三 五部母主、二十五部
- 七四 三部母主
- 七五 三 平 等
- 七六 金剛等義
- 七七 結 集
- 七八 四 身 識
- 七九 八 識 等

- 八〇 合 蓮 花
- 八一 釈迦毗盧
- 八二 三 諦
- 八三 体・宗・用
- 八四 三 科 百
- 八五 未 萌 事
- 八六 五種法苑五部
- 八七 一法四種法
- 八八 四方四仏
- 八九 四種法の加句
- 九〇 毗盧薩埵
- 九一 五 忿 怒
- 九二 干 栗 多
- 九三 解 界
- 九四 入 智 等
- 九五 五 仏 座
- 九六 本 不 生 際
- 九七 五 乘
- 九八 有為無為
- 九九 六大能成
- 一〇〇 廻向陀羅尼